

特別なお客様へお贈りするミツオカならではのカーライフエッセイ

Mitsuoka press

ミツオカプレス

特集

工場見学

「車体工程」

Series

もっと、感じよう。ミツオカのクルマができるまで。

Vol.

1



溶接工程を担当する車体メンバーの皆さん

小さな工場には、
夢がある。

MITSUOKA

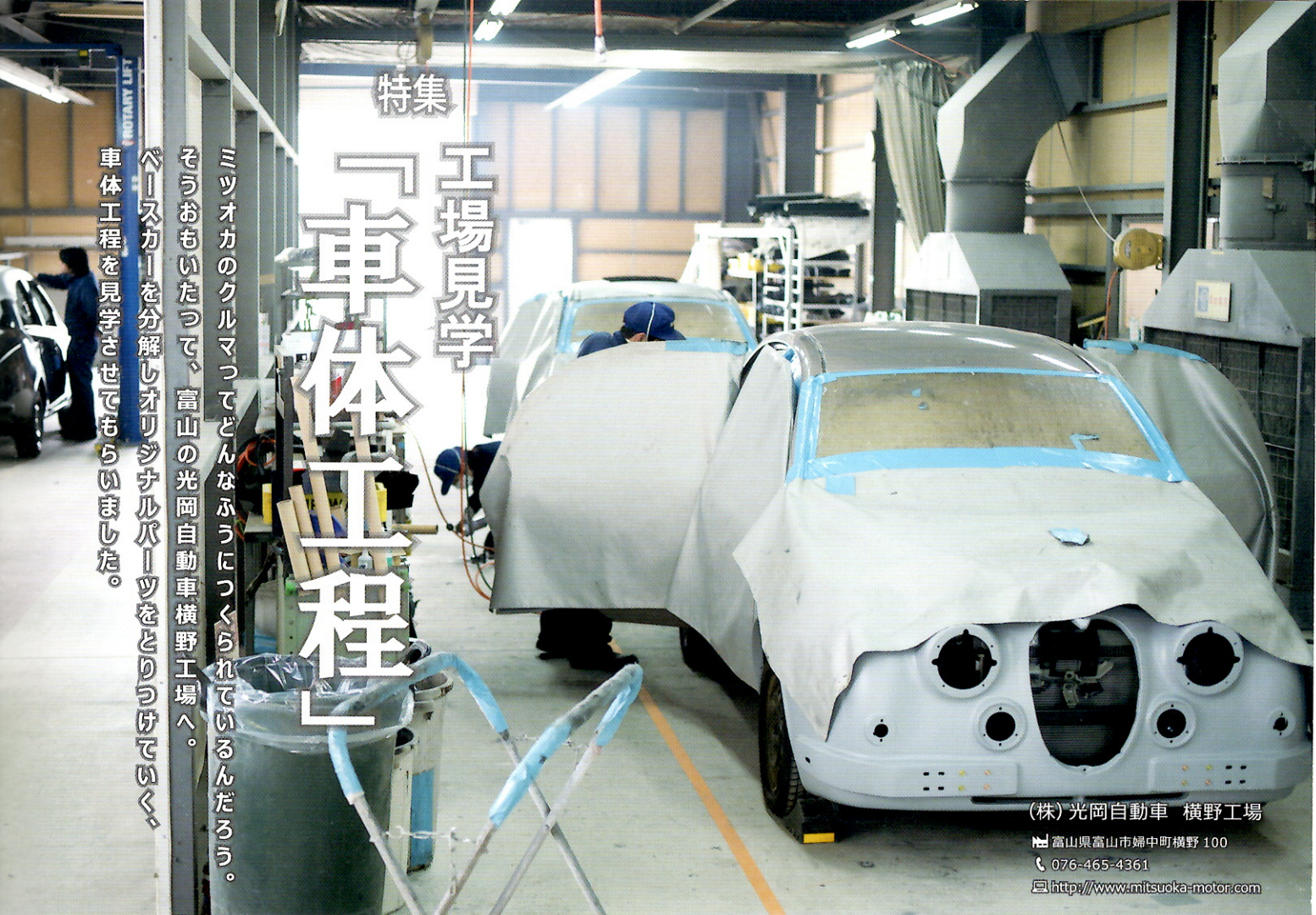
株式会社 光岡自動車

特集

工場見学

「車体工程」

ミツオカのクルマってどんなふうにつくられているんだろう。そうおもいたって、富山の光岡自動車横野工場へ。ベースカーを分解しオリジナルパーツをとりつけていく、車体工程を見学させてもらいました。



(株)光岡自動車 横野工場

富山県富山市婦中町横野 100

076-465-4361

<http://www.mitsuoka-motor.com>

Series

もっと、感じよう。ミツオカのクルマができるまで。

工場見学「車体工程」

1 / 分解

ガーツギヤギヤギヤー！
分解の作業音は View の産声でした。

工場にはいったとたん耳をつんざく大音量。
その方向に目をやるとバラバラになつていく1台が。

なんとベースカーを View に仕立てなおすために分解しているのだそう。
ボンネット、ドア、トランク

などの外装パーツや、シート、パネル、カーペットなどの内装パーツをひとつひとつ取りはずして、ほぼフレームのみにしてしまうなんてびっくり。ここからどんなふうに生まれかわっていくのか期待がふくらみます。

クラフトマンボイス

「分解に求められるのは確実かつ迅速であること。」

多種多数のパーツをとりはずすので、どの工程よりも破損・汚損のリスクは高いですが、そのような厳しい条件をクリアしながら、自分の技術を進化させていくことに大きなやりがいを感じています。



ベースカーは日本を代表するベストセラーカー



分解されたベースカー。Viewはこのベースカーにオリジナルボディをかぶせて生産されています。

2 / 仮組み

見えてきたのは、ちよつとすましたあのマスクでした。

ベースカーにまずとりつけるのが「コア（繊維強化プラスチック）」でできたフロントとトランク。とりつけるといっても、ただとりつけるのではなく、ベースカーと「コアパーツ」それぞれの個体差を考慮したうえで、ミリ単位の微調整をくわえながらおこなっていくのだそう。

ツラをキレイにあわせること、すき間を規定値にたもつことを、極限まで追求する仮組みは、クルマをつくっているとはおもえないほど繊細。

聞けば、方法や手順はマニュアルではなく経験にのみよっているのだとか。これがミツオカのクラフトマンシップかと、感心しきりです。



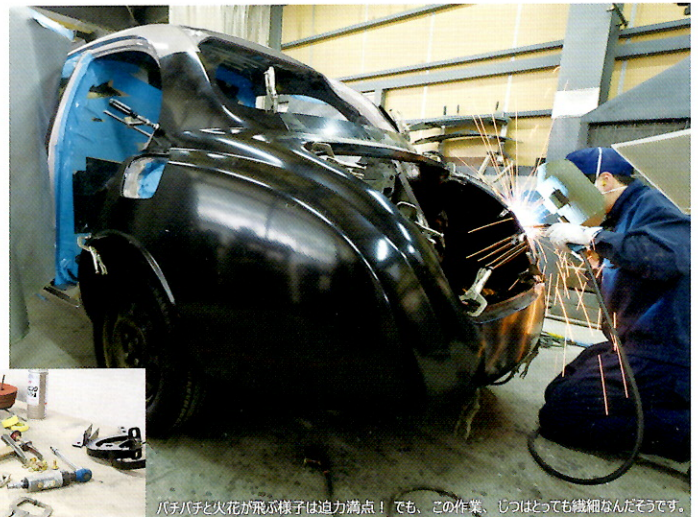
ごくまれにベースカーとFRPパーツの間に隙間が。そんな場合パーツを加工して隙間を埋め直すといい。



ネジ1本の固定位置で仕上がりが左右すること。とうぜん真剣な表情になりますよね。

クラフトマンボイス
「仮組みにおいてなによりものというのが経験。」

経験を積み重ねるほどとりつけかたの引き出しがふえていくからです。でも、熟練のクラフトマンも、ときにはああでもないこうでもない、試行錯誤しています。それだけにびたりとあわせられたときは、本当に嬉しいし、楽しいし、気持ちいいんですよ。



バチバチと火花が飛びまわります！でも、この作業、じつはとっても繊細なんだそうです。



溶接のポイントは何冊ものノートにきつしり目で見て耳で聞いてつかんだ溶接のポイントが、図解つきで細かく書きこまれたノートたち。熟練のクラフトマンから若手のクラフトマンへ、技術がしっかりと受け継がれていることが伝わってきます。



3 / 溶接

ルーフからリアへ、端正なカーヴが描かれています。

火花による破損・汚損を防ぐために室内を覆ったら、つぎにとりつけるのが鉄板でできたルーフとリア。

溶接によって生じる熱は鉄板パーツにひずみをつくってしまうので、熱をいかに逃しながら鉄を溶かしこんでいくかがキモになるのだそう。

このキモは、1台1台、溶接箇所の順番や溶接棒圧着の力加減を調整することで徹底。さすがのこだわりとしかいいようがありません。ちなみに、作業環境はなかなか過酷。風圧や鉄粉による溶接不良を避けるため、夏は扇風機をまわせず、冬は換気をしつつげなければならぬのだとか。

ミツオカのクルマは揺らがぬ矜持とたぎる情熱のもと生みだされる。そんなことをひとと感じた瞬間でした。



クラフトマンボイス

「溶接はクルマのカチがからりと変わるのが醍醐味。」

暑さ寒さが厳しく、火花や鉄粉が飛び、パーツはずつしりりと、作業環境は少々タフですが、この醍醐味を存分に楽しみながら、より美しくよりスピーディーに仕上げられる技術を磨いて、世の中にミツオカをもっと広めていきたいですね。

4 / 防錆処理・板金

きららかに彩られるための仕度
が、すっかりととのつたよう
です。

必要なパーツをすべてとり
つけたらよいよ仕上げ。

付着した鉄粉をとりはらったあと、
剥きだしになった鉄板の酸化を防ぐ防錆塗料を塗ったり、
ひずんでしまった鉄板のハリをとりもどす加工を施したら車体工程は完了。

接合部があらわになった、
なんだかちよつと無骨なボディ、
次の塗装工程でどんなふうに変わっていくのか、いまから
すごく楽しみです。



当金（あてがね）という鉄塊を叩きながらハンマーでたたき、ひとつひとつひずみを除去。これは根気がいりそう。



火花を飛ばしボディを平滑に削る作業。瞬きを忘れ見入ってしまいました。



常に危険と隣り合わせな溶接工程。安全確認は欠かせません！気さくな職人さんもミーティングの表情は真剣。



もっと、感じよう。
ミツオカのクルマができるまで。 **次回は「塗装工程」**です。



ピュート(K12、K13)用 トランクダンパー 新設定のご案内

NEWS!



ピュート（K12、K13）用のトランクダンパーを新設定致しました。

ショッピングで手荷物が多いとき。お子さんと手をつないでいても。雨の日、傘をさしながらでも。どんな時でも簡単にトランクを開けることが出来ます。

ピュートをこれからご購入いただく方はもちろん、既にピュートと生活されているユーザー様のおクルマも取付可能です。

これからもピュートと末永くお付き合いいただける為に。

小さな工場には、
夢がある。

MITSUOKA

株式会社 光岡自動車

No.15030405